

最小の形式素性システム素描

刺田昌信

上智大学国際言語情報研究所 特別研究員

本発表では、統辞計算に可視的な素性を最小化するという指針のもと、英語における格素性は統辞計算には不要であることを示す。統辞現象を記述・説明するとき、その都度新しい素性を仮定したのでは、理論は説明力を失ってしまう。そこで、本発表では（少なくとも日本語・英語に関して）(1)のようなテーゼを立て、これに反すると思われるものはその必要性を批判的に検討するという研究方針を示す（「阻止素性」については Sorida 2016 を参照）。

(1) 統辞計算に可視的な素性は阻止素性（日本語の格素性、英語の ϕ 素性）のみである。

これに従うと、英語の格素性はその（狭義の）統辞計算における必要性は批判的に検討されなければならない。本発表では(i)格付値は一致に付随する操作である(Chomsky 2000 を参照)、(ii)（鎖形成の観点から考えて）統辞部門は相レベルメモリを持つ(特に Chomsky2015 を参照)という 2 点から、英語の格素性は統辞計算には不要であることを示す。さらに、この主張の理論的、経験的帰結も検討する予定である。

参考文献

- Chomsky, Noam. (2000). Minimalist Inquiries: The framework. In *Step by Step: Essays on Minimalist Syntax in Honor of Howard Lasnik*, ed. by Roger Martin, David Michaels, and Juan Uriagereka, 89-155. Cambridge, Mass.: MIT Press.
- Chomsky, Noam. (2015). Problems of projection: extensions. In *Structures, Strategies and Beyond: Studies in Honour of Adriana Belletti*, eds E. Di Domenico, C. Hamann, and S. Matteini (Amsterdam: John Benjamins), 1-16.
- Sorida, Masanobu. (2016). Unvalued Features and Search. Paper presented at the 88th ELSJ Annual General Meeting.